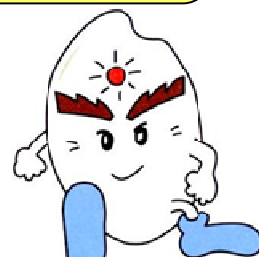


## 低温と大雨で生育は一時停滞 ～中干しは茎数確保を見極めて～

### － 重点事項 －

- ◎ 中干しまでは浅水管理にして、太陽光を活かした速やかな生育回復を目指す
- ◎ **中干しは田植え後1か月をめやすに開始する**
- ◎ 水田内の用排水路の役目を果たす溝切りは、確実に実施する
- ◎ 中干し時期を利用して、取りこぼしたヒエや多年生雑草を防除する



いぶき君

### 1 現在の生育状況 ～長期湛水で徒長ぎみ～

- コシヒカリを中心とした田植盛期は5月12日頃でした。連休植えの早生品種では5月4日の強風、7～10日の低温で植え傷みが見られ、生育は停滞ぎみです。
- 5月17～19日の豪雨で冠水被害が発生する等、各地で深水期間が長くなっています。この影響で葉身が長く、水面に葉が垂れたイネが多く見られます。
- 水田除草剤散布間もない場合は、除草効果が低下する懸念があります。

### 2 病害虫の徹底防除 ～いもち病対策～

- ほ場に放置した補植苗は、葉いもちの伝染源となるので、速やかに除去しましょう。
- こしいぶき等のいもち病抵抗性が中程度でも、薬剤の育苗箱処理をしなかった場合は、6月上中旬をめやすに予防粒剤を本田に散布し、葉いもちの発生防止に努めましょう。

### 3 適切な畦畔管理 ～雑草を伸ばさない～

- カメムシは休耕田や農道、畦畔などの雑草地で増殖します。特に穂が出たイネ科雑草が繁茂しないように、定期的な草刈りが大切です。
- 雑草に結実させないよう、6月上旬から3週間程度の間隔で草刈りしましょう。
- カメムシの繁殖は、農道畦畔だけではありません。本田内の雑草（ヒエやホタルイ）でも繁殖します。取りこぼし雑草の対策も万全に努めましょう。

### 4 後期雑草防除 ～取りこぼし・難防除雑草対策のポイント～

- 取りこぼしたヒエや、多年生雑草でお困りの場合は、中干し時期を利用して茎葉散布する後期除草剤の活用を検討しましょう。
- 砂質土壌で減水深が大きいいため、一発処理除草剤の効果が低いほ場では、落水して茎葉処理する除草剤の使用が効果的です。

#### ☆ 除草効果を上げるためには？（茎葉処理除草剤の場合）

- ① 雑草の根元まで薬剤がかかるように、落水して散布する。
- ② 除草剤は、雑草全体にまんべんなくかかるようにする。
- ③ 雑草が部分的に発生している場合は、その部分だけ散布する。

## 6月の重点作業

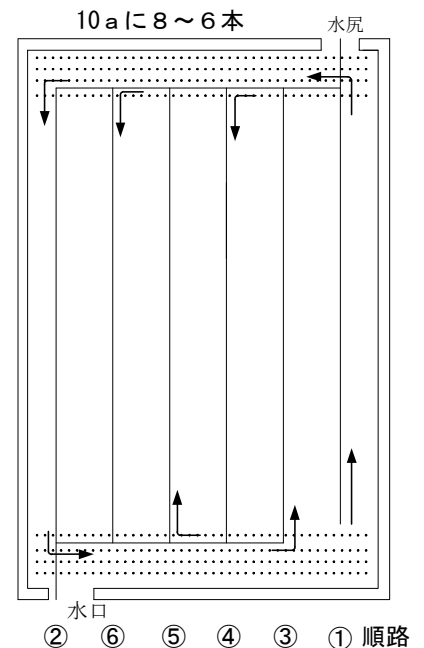
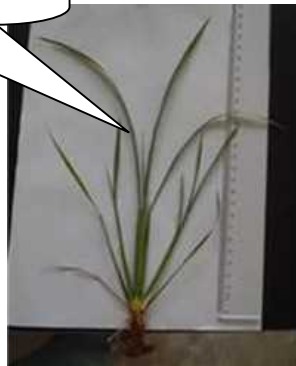
### 中干し・溝切りはしっかり実施！

- 中干しは、田植え後1か月がめやすですが、茎数確保状況を確認しましょう。
- 目標穂数の80%（過剰生育になりやすい地域は70%）の茎数を確保したら直ちに始めましょう。
- 目標穂数の40%程度で中干しを開始しても、標準的な開始時期の場合と同等の収量が確保されます。反対に遅れると、生育過剰となり乳心白粒等未熟粒の割合が増加して品質低下を招きます。
- 中干し効果を高めるために、溝切りは適期に確実にいきましょう。

6月5日頃の姿。もう1枚葉が出れば中干し開始です。

#### 中干し開始時の茎数のめやす (コシヒカリBL・こしいぶき)

- m<sup>2</sup>当たり茎数：280本（平坦部）
- 1株当たり本数  
坪50株植 → 18本  
坪60株植 → 15本



溝切りの順序

#### ＝溝切り・中干しの様々な効能＝

- ① 無効茎の発生抑制による適正生育量の確保
- ② 下位節間の伸長抑制による倒伏軽減
- ③ 土壌への酸素供給による根の健全化
- ④ 収穫時の機械作業が容易な地耐力の確保
- ⑤ 作溝によりフェーン等の緊急時の迅速なかん水が可能
- ⑥ 作溝により秋の長雨による停滞水の容易な排水が可能

- 溝切りの際は、接続部分を手直するとともに、必ず水口及び水尻につなぎましょう。
- 中干しは田面に小ひびが入り、軽く足跡が付く程度まで行いましょう。
- 根を広く張らせて登熟向上を図るために、遅くとも出穂1か月前までに終了しましょう。
- 砂質土壌や地力の低いほ場では、弱めの中干しとしましょう。



中干しの強さは、小ヒビが入る程度（上の写真程度）。

**7キ対策(夜間落水や水の更新)で根の活力低下を防止**